

3. 産業の発展（農業をさかんにする。）

月館町は、山にかこまれ、平らな土地が少ないため、水田面積がせまく、米作りに変わる農作物づくりをする必要がありました。

そこでおこなわれたのが、養さんやちくさんです。むかしの人たちは、養さんやちくさんをさかんにするため、どのような努力やくふうをしてきたのでしょうか。

(1) 養さんをさかんにする

むかし、崇峻天皇のきさきである小手姫が、月館に来て、人々に養さん、製糸、はたおりを教えたという伝説が、古くから語り伝えられてきたほど養さんはさかんでした。

月館町は山が多く、平らな土地が少ないため、人々は、山の斜面をいっしょうけんめい平らにし、段々畑を作りました。そこに植えたのが「くわ」です。くわは、山のしゃめんでもよく育つ木で、葉っぱは、かいこのえさになります。こうして、かいこのえさとなるくわ畑をふやし、養さんをさかんにしていきました。

今から90年ほど前になると、月館町以外のところでも、養さんがさかんになりました。月館町の人々は、じょうぶで質のよいまゆをつくるために努力をしました。新しいかいこの品種を作り出したり、むしろをしくかわりに、紙をしいて成長をはやくさせるくふうなどをしたことにより、養さんはいっそうさかんになりました。

しかし、今から70年ほど前になると、ナイロンなどが開発され、養さんは、少しずつ行われないうようになってきました。現在では、数件の農家が養さんに取り組んでいるだけです。



※ みなさんの家でも、むかし養さんをやっていたかもしれませんね。家の人に聞いてみましょう。